



PRESS RELEASE (2012/2/15)

**九州大学東アジア環境研究機構と鳥取大学乾燥地研究センターが学術交流協定を締結
協定締結記念企画イベント『乾いた大地 砂漠～黄砂のふるさと～』を JR 博多シティで開催**

概 要

九州大学東アジア環境研究機構（機構長 有川節夫）と鳥取大学乾燥地研究センター（センター長 恒川 篤史）は、平成 24 年 2 月 28 日、東アジア乾燥地域の自然・歴史・文化・社会に深く根ざした環境問題の総合的な解決に向けて、組織的連携と共同研究の促進を実現するために学術交流に関する協定を締結します。この協定締結を記念して、2 月 28～29 日に、合同イベント『乾いた大地 砂漠～黄砂のふるさと～』を JR 博多シティで開催します。

■背 景

九州大学東アジア環境研究機構は、「九州大学の知と技術を統合し、東アジア圏の深刻化する環境問題を実践的に解決するための研究活動を通して、環境人材の育成と持続可能な未来環境の創生に貢献する」ことを理念として、学内の 7 研究院および 6 関連研究機関から約 50 名の研究者を結集して東アジアの環境問題に取り組んでいます。

鳥取大学乾燥地研究センターは、乾燥地における砂漠化や干ばつなどの諸問題に対処し、乾燥地における人と自然の持続性の維持・向上に資する研究を推進することを目的として、国内外の研究者・研究機関との学術ネットワークの形成や乾燥地科学分野の共同研究の推進に努めています。

東アジア環境研究機構の砂漠化防止グループは、平成 22～23 年度乾燥地研究センター共同研究（重点研究）「中国黄土高原寧夏地区における日中韓共同砂漠化防止研究拠点の形成」を通じて乾燥地研究センターとの連携を深めてきました。

■内 容

東アジア環境研究機構および乾燥地研究センターは、東アジア乾燥地域の自然・歴史・文化・社会に深く根ざした環境問題の総合的な解決に向けて、組織的連携と共同研究の促進を実現するために学術交流協定を締結することになりました。両機関は、本協定に基づいて、乾燥地域の環境問題に関するシンポジウム等の共催、人的交流（研究者の受入、講義・講演の実施）、共同研究、情報交換（定期刊行物等の相互交換）等を行う予定です。

1. 学術交流協定締結調印式について

日 時：平成 24 年 2 月 28 日（火）10:30～

場 所：九州大学箱崎キャンパス 本部第一庁舎 2 階 特別応接室

2. 九州大学東アジア環境研究機構・鳥取大学乾燥地研究センター学術交流協定締結記念合同イベント『乾いた大地 砂漠～黄砂のふるさと～』

（「黄砂のふるさと」に焦点を当て、砂漠化問題への取り組みと黄砂研究の最前線を紹介します。）

日 時：平成 24 年 2 月 28 日（火）12:00～20:00、平成 24 年 2 月 29 日（水）9:30～19:00

場 所：JR 博多シティ 10 階会議室（福岡市博多区博多駅中央街 1 番 1 号）

内 容：

【特別講演】 ※ 申込不要、無料

第 1 回 砂漠化にとりくむ [2 月 28 日（火）17:30～19:00]

・山中 典和（鳥取大学教授） 「乾燥地の砂漠化と緑化」

- ・辻本 壽 (鳥取大学教授) 「野生の力で次世代作物を作り出す」
- ・多田内 修 (九州大学教授) 「乾燥地の緑化をささえる訪花性昆虫類」

第2回 黄砂のふるさと [2月29日(水) 17:30~19:00]

- ・篠田 雅人 (鳥取大学教授) 「黄砂のふるさとを旅する」
- ・鹿島 薫 (九州大学准教授) 「さまよえる湖と変わりゆく砂漠」
- ・佐藤 廉也 (九州大学准教授) 「史上最大の植林プロジェクトと黄土高原農村のゆくえ」

【展示体験コーナー】 ※ 無料

(1) 展示コーナー

- ・ゲル (モンゴルの移動住居) や乾燥地の道具などを展示
- ・黄砂について発生源の話題を中心に解説
- ・乾燥地や砂漠化防止の取り組みを紹介
- ・乾燥地に関する写真や映像を展示・上映

(2) 体験・学習コーナー

- ・顕微鏡で砂漠の砂を観察
- ・乾燥地の民族衣装を試着体験
- ・鳥取砂丘の砂や色砂を使って砂時計、砂絵を作成
- ・クイズラリー

■効果

本学術交流協定の締結により、乾燥地域の環境問題に関する人的交流や共同研究を通じた組織的連携協力体制が強化され、東アジア環境研究機構および乾燥地研究センターの研究基盤の充実やそれに基づく研究ネットワークの発展が促進され、乾燥地科学の進展、乾燥地科学を担う視野の広い若手研究者の育成、乾燥地域の環境問題解決に資する多様な貢献が期待されます。

第10回国連砂漠化対処条約締約国会議(COP10)が、2011年10月10~21日、アジアで初めて韓国の昌原市で開催され、黄砂被害拡大や砂漠化への関心が東アジアでも高まっています。砂漠化は湿潤な日本には縁遠いように思われますが、日本海側に位置する福岡県や鳥取県は、黄砂という形で直接的に砂漠化の影響を色濃く受けています(福岡市は2011年に自治体では初めて黄砂影響検討委員会を設置しています。)。したがって、九州大学と鳥取大学が、黄砂の発生源である東アジアの砂漠化防止に取り組んでいくことは、日本・東アジアの環境改善に貢献できるのみならず、東アジア関係国との環境改善の協同につながります。

■今後の展開

東アジア環境機構と乾燥地研究センターは、中国科学院水利部水土保持研究所と韓国国立江原大学校山林環境科学大学と中国寧夏回族自治区の固原に日中韓共同砂漠化防止拠点を形成することを目指し、現在その準備を進めています。固原では、貧困に苦しむ荒漠山間傾斜地の農民35万人を黄河の水を導水して開発した新規灌漑農地へ移民させることを決めました(生態移民と呼ばれています)。移入する新規灌漑農地でどのような節水農業を展開するのか、移出した荒漠山間傾斜地でどのように植生を回復させるのかが重要な課題となっています。この問題を東アジアの環境問題として捉え、日中韓共同でこの問題に取り組む予定です。

【お問い合わせ】

東アジア環境研究機構研究支援室

電話：092-802-2566

FAX：092-802-2568

E-mail：event@rieae.kyushu-u.ac.jp